

【全体概要】

- 本県では加工業務用タマネギを推進し、定植機や収穫機などをJAが整備し、産地が形成されている
- しかし近年、定植時期に豪雨や長雨などの天候不順が続き、①定植遅れや苗の老化により生育が遅れ収量が減少、②長雨により定植ができずに、計画した面積が栽培できない等が課題となっており、実需者からは安定した出荷量が維持できる産地を要望されている
- そこで、安定的にタマネギを出荷するため、規模拡大に対応した新たな機械化体系の確立や安定的に出荷量を確保できる体制の検討を進める

新品種・新技術等の概要

タマネギを安定的に出荷できる技術の導入

①タマネギの大型コンテナに対応した大型 拾上機

規模拡大に対応したタマネギ用大型機械



オニオンハーベスタ

②強制通風乾燥技術

大型コンテナに対応した強制的に通風し乾燥を早める技術



強制通風乾燥機

③高温期育苗技術

覆土専用培土や遮熱シートを利用した高温期に発芽を安定させる技術

④春まき夏どり作型

農研機構東北農業研究センターで開発された技術で春に定植し7月に収穫する作型

主な取組内容

○大型拾上機による収穫作業など上記
4技術の実証を実施

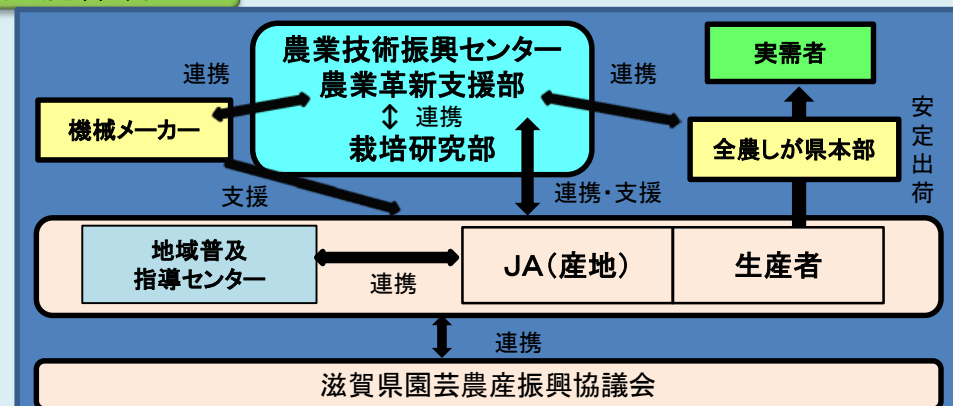
実証ほ県内3カ所に設置

○実需者との意見交換会、関係者による
現地検討会や園芸振興大会を開催

○生産者との意見交換会や園芸振興大会
で実証状況の報告を行い生産者へ周知



実施体制図



課題と今後の対応

実績

- 4技術の実証ほを設置
- 早植え(11月10日までに定植)面積が13.5haとなり、12月定植を回避
- R元年産の栽培は30.1ha、当初契約量は974tであったが、それを上回る1052.3tを出荷することができた
- 当初契約数量に対する出荷率 82.6%(H30)→108%(R元)

課題

- ハーベスタによる拾上作業の効率化のためのほ場での乾燥方法
- 春植え作型の小玉化・腐敗対策

今後の対応

- 規模拡大に対応した新たな機械化体系の確立
- 秋に定植できなかったほ場などでの定植機会を増やし生産量を確保する体制の検討